

平成20年度

学校関係者評価表

宮崎県立富島高等学校（全日制）

平成20年度 宮崎県立富島高等学校 自己評価 および 学校関係者評価

評価基準	4：十分達成できている。 3：どちらかと言えば、達成できている。 2：どちらかと言えば、不十分である。 1：不十分である。
------	---

評価区分	評価項目	具体的方策	成果・課題・改善策等	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント
				個別	総合		
教師の授業力の向上による生徒の学力の向上	① 授業力の向上を目指した校内研修や地域と密着した公開授業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業評価（年2回）、公開授業（年2回）研修等を通しての授業力の向上を図る。 ○ 生徒による授業評価を実施し分析する。 ○ 評価制度、教育相談、進路指導などの各分野で職員研修を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公開授業は、同一教科、他教科相互に参観できるので、授業の工夫・改善につながった。 ○ 生徒による授業評価を行うことにより、自分の授業を振り返ることができた。 ○ 具体的かつ実践的な内容で職員研修が行われ、資質の向上につながった。 ● 公開授業への参観者に片寄りがみられる。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ① 公開授業は、参加者に片寄りがみられるということであるので、呼びかけ等にも工夫をされたであろうが、課題であると思う。 ① 授業公開における保護者の参観率をいかに上げるかが課題であり、授業公開の内容とその必要性についてのアピールが求められていると考える。 ① 8月に実施された各中学校教諭との進路指導研修会については高く評価する。 ② 検定の度に、朝課外・夕課外と非常に熱心に取り組まれ、成果はさておき指導体制は最高であった。 ② 今後、資格取得へ向けての早期着手が望まれる。 ③ 他校視察は、今後も続けて見聞を広めてほしい ③ 研修視察については、十分に取組まれている。 ③ 研修視察にも、たくさんの参加がほしい。生徒の参加研修も初めての試みで、生徒会にもプラスになったのではないかな。 ③ 鹿児島女子高校の視察は、大変素晴らしかったようであるが、詳しい記録（ビデオ）を残せばよかったと感じる。
	② 個別指導や課外を実施し、基礎学力の定着と資格取得や検定に意欲的に取り組む生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種検定に向けて、計画的な課外を実施する。 ○ 教科担任による資格取得へ向けた個別指導を実施する。 ○ 欠点保有者へのテスト前指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続的かつ計画的な課外が実施でき、成果が見られた。 ● 2・3級の合格率は良かったが、上位級になると、期待通りの成果は伴わなかった。高度の資格を取得させる指導の強化が課題である。 	3			
	③ 県の施策として実施される研修への参加や先進校への視察を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ スーパーティチャーの授業参観し、各教科での研修を推進する。 ○ 保護者・職員・生徒会による他校視察を実施する。 ○ 県内大学・短大・専門学校等への視察を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修参加者からは、部会や教科会で詳細な情報提供がなされ、大きな啓発となった。 ○ 鹿児島女子高校へ視察は、PTAだけでなく生徒も参加しての試みで大変意義のあるものであった。 ● 他校視察は、3年生だけでなく2年生も参加すると、次年度の活動へと生かされるのではないだろうか。 	4			

平成20年度 宮崎県立富島高等学校 自己評価 および 学校関係者評価

評価基準		4：十分達成できている。 3：どちらかと言えば、達成できている。 2：どちらかと言えば、不十分である。 1：不十分である。					
評価区分	評価項目	具体的方策	成果・課題・改善策等	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント
				個別	総合		
生徒指導の充実による品格のある行動力の育成	① 高校生としてのマナーや思慮分別のある行動を身に付けさせる指導を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常的な挨拶やマナー、服装・容儀等の指導を充実させる。 ○ 定期的な朝の立番指導や放課後の巡回指導を実施する。 ○ 規範意識を高めるために、定期的な集会での呼びかけを行う。 ○ 全職員による指導票を利用したマナー指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉遣いや服装容儀など、日常的なマナーについては、継続的に指導を行うことにより、良好な状態が続いている。 ○ 昨年度から全校生徒を対象に指導票での対応を行ってきている。服装による指導票は減少傾向である。 ● 携帯電話による指導票は増加している。携帯電話やインターネットをめぐる問題があり、指導の強化が必要である。 	3		3	<ul style="list-style-type: none"> ① 高校生としてのマナーアップについて、特に成果がみられる。これは地域の方々の意見からも評価できる。 ① 生徒指導部の活動としてアンケート調査、巡回指導等、活発な活動が行われている。まだまだ改善すべきところは残っていると思われるが、良い結果が出ているのではないだろうか。 ① 挨拶・言葉遣いについては、社会人になって注意を受けるのは、本人にとって“辛い”ことであり、仕事場の印象を悪く植え付けることになったりするので、なるべく早い段階で指導する方がよいと思う。
	② 心身の鍛錬と個性の伸長のために、全員加入による部活動の推進と教職員・生徒が一体となった望ましい人間関係の醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動への全員加入を推進し、充実・活性化を目指す。 ○ 学期2回の計画で、キャプテン集会や未加入者集会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウェイトリフティング部の全国大会出場、ソフトボール部の九州大会出場、郷土芸能部の台湾公演など、部活動が全体的にレベルアップしている。 ○ 学期2回、キャプテン集会や未加入者集会を実施した。 ● 部活動に入っていない生徒、もしくは入っているが活動していない生徒を指導する必要がある。 	3			<ul style="list-style-type: none"> ② 部活動活性化により、学校全体のイメージアップが図られると思う。 ② 部活の全員加入については、魅力あるものを、全体で考慮すべきである。 ② 各部とも熱心に活動があるように思われるが、是非とも100%加入を願いたいものである。 ② 楽しめる「マナー部活」のようなものがあれば、社会人となったとき役立つと感じる。マナーは、社会の出たら重要事項である。
	③ 自転車運転のマナーアップなど交通安全教育の推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自転車安全利用マナーアップモデル校」指定校として、交通安全教育を充実させる。 ○ 定期的な交通立番指導や交通安全教室を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ モデル校として自覚が芽生え、自転車運転に対するマナーが向上した。 ○ 交通安全教室の感想文の内容より、交通マナーに関する生徒の意識が高まっていることが窺える。 ● 自転車の乗り方については、まだ一部の生徒に、並列運転等が見られ、根気強い指導が必要である。 	3			<ul style="list-style-type: none"> ③ 交通立番指導では、先生方の姿がよく見られ頭の下がる思いである。 ③ 一部、サドルを低くして乗っている自転車通学生の姿は、良くないと感じる。
	④ 朝の読書の充実により、生徒の意識改革を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の読によって、落ち着いた雰囲気の中で一日を始められるような生徒の意識を確立する。 ○ 朝の読書による効果を上げるため、教室の環境を整え、定期的な巡回指導を実施する。 ○ 学級文庫を設置する。 ○ 毎月1回、「図書だより」を発行して、読書の啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒・職員ともに、朝の読書への取り組みは良好である。読書週間の取り組みとして、放送部との連携、図書委員の活動、生徒全員の標語づくり、教職員の推薦図書、多読賞の表彰などを通して、読書活動への関心を高めることができた。 ○ 毎日、巡回指導することで、生徒の読書の実態把握ができた。 ○ 学級文庫の設置により、読書に取り組まない生徒がいなくなった。 ○ 毎月1回、「図書だより」を発行した。 ● 図書館のより一層の利用を推進することが課題である。 	4			<ul style="list-style-type: none"> ④ 読書等については、十分成果がみられる。自宅での更なる向上が個人の間人性アップに繋がるであろう。 ④ 朝の読書は、素晴らしい取り組みであるが、読書に興味を示さない生徒を、どのように読書に興味を持たせるか課題である。 ④ 特色ある取り組みやその成果について高く評価する。特に朝の読書活動。 今後は、専門高校の特性を活かした取り組みを期待する。 ④ 「朝の読書」の取り組みのことを聞き、感心した。

平成20年度 宮崎県立富島高等学校 自己評価 および 学校関係者評価

評価基準		4：十分達成できている。 3：どちらかと言えば、達成できている。 2：どちらかと言えば、不十分である。 1：不十分である。					
評価区分	評価項目	具体的方策	成果・課題・改善策等	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント
				個別	総合		
生徒・保護者の夢を叶える進路目標の達成	① キャリアアップ推進事業を活かして、高度資格取得者及び各種検定合格者の増加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本情報・シスアド試験対策課外、日商簿記検定対策課外を年間を通じて実施することにより、高度資格取得を目指す。 ○ 職員による商研主催の高度資格合同キャンプ、各種専門学校が主催する研修会などへ参加し、指導力を高める。 ○ 面接指導や小論文指導など、全職員が分担するシステムの構築する。 ○ 教科会を通して数値目標の共通理解及び目標達成のための計画を立案する。 ○ 外部講師の招聘を行い、専門的な講習の受講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種検定試験の合格者数が増加した。 ○ 面接指導や小論文指導など、全職員が分担するシステムが効果を上げている。 ○ キャリアアップ推進事業の取り組みとして、外部講師の招聘を行い、専門的な講習を行うことができた。 ● 高度資格の取得者数は、当初の数値目標には届かなかった。 	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ① 日商簿記2級等、資格の取得のための指導強化を検討していただきたい。 ① 子ども（生徒）に、更なる意識を持たせる必要がある。 ① 高度資格取得の努力の跡が見られたにもかかわらず、目標に近づけない・・・。益々の効果アップの努力を期待したい。 ① 指導目標に近づけたことは、今後の努力次第でとても楽しみである。 ① 多くの資格取得の目標を掲げ、努力されていることは、市民の方々が周知のことと思う。 <p>先日の課題研究発表会も参観して、感心しながら勉強させてもらった。ただ、女子の生徒さんの発表するときの声が、みんな同じ語調で、少し元気がないように聞こえ、もったいないように感じた。男子の生徒さんはとても良かった。</p>
	② 教職員との連携による進学支援体制及び進路対策専門員の活用等による就職支援体制の確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「総合的な学習の時間」を軸として、計画的な進路指導を実践・展開する。 ○ 進路対策専門員も参加し、「総合的な学習の時間」を生徒の進路希望に分けて、コースごとに講座を実施する。 ○ 進路対策専門員との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路希望別に計画的に取り組みを始めたことで、生徒の意識や取り組みは良好であった。 ● 論文指導は、教科の授業内容と連携させて行くと、さらに成果が期待できるのではないか。 	3			<ul style="list-style-type: none"> ② 学年により差があるように感じる。平均して、学校・家庭が連携を充実させる必要がある。
	③ 中途退学対策対応教員の活用など、教育相談体制の整備や家庭訪問等の充実により、生徒や保護者の意識啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中途退学対策対応教員と担任の連携による面談・家庭訪問等を実施する。 ○ 担任から要請のあった生徒との面談や家庭訪問を実施する。 ○ 中途退学対策対応教員による保護者や中学校との連携を図る。 ○ 悩みアンケート、人権学習、グループエンカウンターなど、時機を得た取り組みを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中途退学対策対応教員、教育相談部、外部との連携を図ることにより、不登校ぎみの生徒や保護者等へ働きかけができた。 ○ 不登校や別室登校等の生徒の教育相談委員会が開催され、対策や話し合いが行われ、その改善が見られるなど成果が見られた。 ● 人権感覚やカウンセリングマインドは、意識して学ばないと、なかなか身につかない。生徒指導の中身とも密接に関係するので、教育相談部と生徒指導部共催の研修会なども必要である。 	3			<ul style="list-style-type: none"> ③ 不登校が始まった時点で、担任の対応で良い方向へ進む例を見てきた。もっともっと、カウンセリングの必要性があるのではないだろうか。 ③ 中学時代の問題把握ができない。夏休み前までの保護者との対話対策が必要である。 ③ 複雑化するメンタルケアや指導について、評価項目に上げていることが難しいと思われるが、今後の成果を期待する。

平成20年度 宮崎県立富島高等学校 自己評価 および 学校関係者評価

評価基準		4：十分達成できている。 3：どちらかと言えば、達成できている。 2：どちらかと言えば、不十分である。 1：不十分である。					
評価区分	評価項目	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント	
			個別	総合			
地域や保護者との連携強化	① 保護者や地域の中学校などへ情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生の一日体験入学や中学校の教師・保護者向けの進路研修会を実施する。 ○ 中学校向けに、広報プロジェクトによる広報紙「富風」を配付する。 ○ 「学校紹介パンフレット」を配付する。 ○ 学校新聞「PTA広報」の内容を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の教師や保護者向けの進路説明会を開催し、学科ごとの模擬授業や説明を行い、理解を深めてもらうことができた。 ○ 中学校へ広報紙「富風」を配付することにより、情報発信ができた。 ● 説明会や模擬授業において、より多くの参加者を増やすことが課題である。 	4		<ul style="list-style-type: none"> ① 学校をPRするには、地域との交流・情報が大切であると思われる。今後も連携を推進して、地域に愛される学校であってほしい。 ① 学校側の情報発信・説明会等は、高く評価できる。 ① 「富風」のポスターの配付は、周囲に相当評判が良い。 ① PTA広報は充実している。 ① 広報紙「富風」等による学校の取り組みや活動内容についての情報発信は、評価できるものであり、今後は発信先の拡大を図ることが必要ではないだろうか。 	
	② 学校行事の活用やPTA総会等への参加率を向上させ、保護者の学校への関心を高揚させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTA総会の出席率を向上させる。 ○ PTA総会の欠会者集会を開催する。 ○ 入郷地区でのPTA地区会を実施する。 ○ 学年PTAを実施する。 ○ PTAによる学校視察の実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTA役員会（常任委員会・三役会）、各専門委員会などが計画的に行われ、PTA活動の円滑な運営ができた。 ○ PTA地区会は、予定通り実施できた。 ● PTA総会の出席率は73%であった。第4次集会まで実施したが、87.1%に留まった。 ● 保護者の意識を高め、2次集会までで目標の出席率に到達できるようにすることが課題である。 	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ② 保護者への意識づけ、どうしたら学校へ関心を持ってもらえるか、大きな課題ではないだろうか。 ② PTA総会の出席率の90%以上を目指す必要がある。
	③ 商工会議所や日向市観光振興課との連携により、商品開発や観光活性化事業への参画を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校と地域との連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の一環で、生徒たちにより日向市観光MAPの作成を行うなど、地域観光活性化に貢献した。 			3	<ul style="list-style-type: none"> ③ 地域の連携においては、素晴らしい成果を出しているの、次の生徒たちにも引き継がれてほしいものである。 ③ 商工会議所や市との連携事業については、提案だけに留まらず、具体的施策へ展開してもらうよう、関係機関へ働きかけていくべきである。（例えば、作成した観光マップを観光地やホテル・民宿に置いてもらい、利用者の意見を聴取するなど） ③ 地域活性化のための活動を学校あげて取り組んでいることは、非常に評価でき、むしろ我々が反省させられたり、期待を持ったりしている。内容に変更があっても、頑張ってもらいたい。

平成20年度 宮崎県立富島高等学校 自己評価 および 学校関係者評価

評価基準		4：十分達成できている。 3：どちらかと言えば、達成できている。 2：どちらかと言えば、不十分である。 1：不十分である。					
評価区分	評価項目	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント	
			個別	総合			
教育課程の編成	① 学習指導要領の基本方針や趣旨が、教育課程の編成・実施に生かされている。	○ 教育課程検討委員会において、学習指導要領の基本方針や趣旨を確認し、各教科において教科会を実施し、適切な教育課程の編成となるようにしている。	○ 今後、学習指導要領の改訂を受け、新たな教育課程を編成すべく、資料を収集するなど準備を進めていかなければならない。		3	4	① 先生方の努力が学力向上に結びついていると思われる。さらなる教育課程の充実を期待している。 ② 各生徒の進路に対応し、充実した学習ができる教育課程は素晴らしいと思う。 ③ 国際経済科の「中国語」「ハングル語」は、少ない時間で学力がついているのか、疑問である。国際経済科はなくてもよいのではないか。
	② 教育課程は、基礎的・基本的内容を重視し、生徒の個性を生かす教育の充実が図れるような編成になっている。	○ 各教科において教科会を実施し、基礎的・基本的内容を重視し、生徒の個性を生かす教育の充実が図れるように、選択科目・学校設定科目などの充実を図る。	○ 生活情報科においては、2年次から生徒の進路に応じた3つの類型「被服」「フード」「保育」を導入した。また、国際経済科の教育課程において、外国語を他の学科と同一単位とし、専門教科の内容を充実したものにした。		4		
	③ 教育課程の改善について、共通理解の場（部会・教科会・学年会など）が設定され、連携が図られている。	○ 教育課程の改善については、部会・学年会・教科会からの意見を集約できるように、教育課程検討委員会を定例開催する。	○ 教育課程検討委員会を毎週1回定例開催することにより、各教科・学科の取り組んでいる具体的な内容を知ることができ、意思疎通が図られている。		4		
学習指導・授業の工夫・改善・学力向上	① 年間指導計画やシラバスが作成され、その計画に基づいた適切な授業がなされている。	○ 保護者に対して、PTA総会において、各学年のシラバスを配付する。	○ シラバスの配付により、年間指導計画や成績評価規準等を明確することで、より適切な理解につなげることができた。また、成績評価に関して説明責任を果たすことができた。 ○ 生徒に対しては、授業中に各教科担任から直接シラバスを用いて、年間指導計画・評価等の説明を行った。		3	3	① シラバスの配付は達成しているが、保護者の理解度が不明である。子供と会話をする中で、この項目については、年間の評価ができた。 ① シラバスの配付で、今まで以上に年間目標などが把握でき、親としても進路の関わり等、研究ができた。 ② 基本的な生活・学習習慣を身に付けさせるのは、簡単なようで難しいことである。根気強く、繰り返し指導していただきたい。 ② 公開授業については、見るだけでなく、その後の工夫が必要である。例えば、短時間の懇談の設定など。 ② 充実した目標が掲げられているにもかかわらず、公開授業の参加者が少ないのが残念である。 ③ 成績向上面で、テスト等の対策がなされているのは、目標達成で評価したい。
	② わかりやすい授業展開のための工夫・改善や研修・実践がなされている。	○ 年2回、それぞれ2週間程度の公開授業を企画し、各教科の授業を自由に参観できる機会を設定する。 ○ スーパーティチャーの授業参観研修をした場合には、研修会などを各教科で設け、授業の工夫・改善に役立つようにする。	○ 公開授業を実施することにより、他教科の指導方法等、参考になる点を取り入れることができた。 ○ スーパーティチャーの授業参観をした職員の報告書等を全職員に配付したことにより、授業の工夫・改善に役立った。 ● 公開授業の参加者が増える工夫が必要である。		3		
	③ 生徒の文字力や学力向上に対する取り組みが行われ、その成果が認められる。	○ 国語科による文字力テスト、英語科による英単語テストを定期的実施する。	○ 文字力テスト（年15回）・英単語テスト（年10回）を計画的に行うことにより、常識的な漢字の読み書き、英単語等の綴り等を身につけることができ、就職試験等に役立った。 ○ 課外や個別指導等を実施することにより検定取得や進路実現に貢献できた。		3		
	④ チャイムでほとんどの生徒が着席し、授業開始・終了時の起立・礼等の基本的な学習習慣が確立されている。	○ 時間厳守・挨拶励行等を身につけさせる指導を確立する。	○ 4月当初の職員会議において、ベル着・礼法指導の徹底等を確認し、生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、授業に集中できるように指導した。 ● 教師がベルとともに教室に入ることの共通理解が必要である。		3		

平成20年度 宮崎県立富島高等学校 自己評価 および 学校関係者評価

評価基準		4：十分達成できている。 3：どちらかと言えば、達成できている。 2：どちらかと言えば、不十分である。 1：不十分である。					
評価区分	評価項目	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント	
			個別	総合			
生徒指導・ 基本的生活習慣の 確立	① 学校で行う教育活動の全てに、生徒指導の機能が発揮されている。	○ 年度初めの職員会議において、生徒指導部の目標を明確に示し、全職員の共通理解を図る。	○ 学校生活での生徒指導全般において、多くの職員で連携して指導する機会が増えた。 ● クラスによっては生徒へ連絡が伝わってなかったり、指導ができていなかったりしている状況がある。	3	3	3	① 全体的に向上が見られ評価できる。しかし、職員に共通理解ができていない部分もある。 ① 学校側の努力の結果かと思われるが、生徒の登下校の態度を見て好感が持たれる。 ② 朝の挨拶運動の実施は大変良いことだと思う。社会に出たら「あいさつ」に始まり、「あいさつ」で終わる。 ② 生徒の皆さんは、私たちが学校に入ると、とてもよく挨拶をしてくれる。 ② 職員のマナーの向上も期待したい。 ③ 問題行動の情報があつたときの対処の方法に、もう少し工夫があればと感じる。
	② 生徒の挨拶、言葉遣い等のマナーの確立、及び生徒の服装容儀等、基本的生活態度の育成が図られている。	○ 朝の登校時間に校門での挨拶運動を実施する。 ○ 交通立番や交通教室を実施する。 ○ 各学年単位で毎月の服装容儀指導を実施する。 ○ 全校集会や学年集会等で高校生としての自覚責任を持つことの大切さを啓発する。	○ 生徒の学校生活の態度は以前に比べ、落ち着いてきた。地域からの評価も高まってきている。 ● 校外でのマナーや格好については、一部の生徒がだらしないという情報があるので、指導する必要がある。	3			
	③ 生徒指導上の諸問題に適切に対応し、迅速な指導ができている。	○ 問題行動の早期発見と未然防止の指導に努める。	○ 問題が発生した場合、管理職への報告と、必要がある場合は内外の関係機関と連携を図り、速やかに対応した。	4			
進路指導・生徒の 進路実現の支援	① 主体的な進路選択能力を育成するため、学年に応じた計画的な進路指導が行われている。	○ 学年別の進路ガイダンスを行う。 ○ LHR等で、進路対策専門員等の進路に関する講話を実施する。	○ 卒業生のお話を聴く会や先輩のお話を聴く会、進路対策専門員の講話など、生徒の進路意識の啓発を図った。 ● 1・2年生は、「総合的な学習の時間」がないため、進路学習の時間がとれず、フォロー不足の面があった。	3	3	3	① 3年生になって慌てるのではなく、入学したときから意識づけする必要があると思う。 ② 不景気風の吹く中、進路指導も大変だろうと思われる。進路担当により適切な指導で良い結果がでていないのか。 ② 十分に評価できるが、一部の職員が負担となっていることが残念である。 ④ 希望する進路の実現には「情報」の活用が重要であると考えている。新聞を読む習慣をつけるのも一つの方法だと思う。 ④ 保護者の意識高揚も望まれる。 ④ 取り組みの中で、同窓会組織「富友会」との連携はできないか、提案したい。 ④ 将来、何になりたいか、情報等の少ない地域だけに大変だと思う。先輩たちが社会人となって、職場のことなどを聞くチャンスをもっと増やしてはどうか。
	② 生徒の個性を尊重し、生徒が自己実現を図ることのできる指導が、組織的・計画的に行われている。	○ 面接指導や小論文指導など、全職員が担当するシステムを構築する。	○ 3年生の「総合的な学習の時間」では、各自の進路別・コース別に分かれ、論文指導や面接指導を行った。 ○ 3者面談・2者面談等、学級担任や進路専門員と協力して個別指導につなげた。 ○ 情報を共有することで、より良い個別指導につながっている。	3			
	③ 生徒の自己実現を図るために、基礎学力の定着と学力向上のための手立てがとられ、有効機能している。	○ 毎日の朝読書、宅習指導、月1回の文字力テスト・英単語テストを実施する。 ○ 1・2年生は、年2回の基礎力診断テストを実施する。	○ 基礎力診断テストを実施することで、生徒のデータをもとに結果を分析し、研修会を行うことにより、個々の生徒理解と進路指導に結びつた。	4			
	④ 進路学習に関して、適切な情報や資料を提供し、生徒の主体的な活動を指導・援助している。	○ 各学年に応じた進路情報を提供する。 ○ 「進路だより」を作成する。	○ 求人情報をタイムリーに提供できた。 ○ 「進路だより」は、各学期2回発行することが出来た。 ● 3年生の進路意識は高いが、1・2年生の意識を高めることが課題である。	3			

平成20年度 宮崎県立富島高等学校 自己評価 および 学校関係者評価

評価基準		4：十分達成できている。 3：どちらかと言えば、達成できている。 2：どちらかと言えば、不十分である。 1：不十分である。					
評価区分	評価項目	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント	
			個別	総合			
学校保健・学校安全	①年間計画に基づいた健康診断等が行われ、生徒・職員の健康管理と疾病予防が適切に行われている。	○ 学校保健安全計画に基づいた生徒・職員の健康診断を実施する。 ○ 職員対象の研修会、生徒対象の健康講話等を実施し、疾病予防の意識の喚起に努める。	○ 健康診断については、予定通り実施することが出来た。再検査が必要な生徒には、精密検査及び治療を促した。 ○ 疾病予防についての講話や研修会等を実施し、健康への意識の高揚に繋がった。 ● 自己の疾病対策が出来ていない生徒には、疾病に対する知識・改善策を学ばせる必要がある。	3	3	3	① 校内の詳細な分析はできているので、今後はその対策を要する。 ① 全体的に目標に達しているのではないか。 ① 危機管理は、訓練が一番だと思う。
	②防災・防火等に対して組織的・計画的な方策が実施されている。	○ 防災・防火時の避難経路及び役割分担の確認を促す。	○ 防災・防火時の緊急避難訓練を実施し、震災や火災時における冷静な行動、判断、命の尊さについて、意識を高めることが出来た。 ● 緊急時の生徒・職員の組織的な行動ができるように、さらに意識を高めていくことが必要である。	3	3		
環境美化	①毎日の清掃活動に積極的に取り組み、学校を汚さない心や、教室・校庭等にチリひとつない環境づくりへの姿勢が見える。	○ 心地よい学習環境づくりのために、校内の美化活動を推進する。 併せて、資源再利用のためのゴミ分別や電気・水道等の節約を積極的に実践する。	○ 清掃区域を明確にし、適切な人員の配置を行った。職員を清掃監督者として配置し、生徒が積極的に清掃に取り組むように努めた。 ● 清掃区域によっては取り組み状況の芳しくない箇所があった。監督者が清掃状況を把握しやすくするための手立てをとったり、重点的に取り組ませるような期間を設けるなど、改善に努めたい。	3	3	3	① 環境美化・エコ活動は、積極的に取り組んでほしい。 ① 日頃から雑草を取るなどが、自主的に可能となれば100%と考える。 ① 無言清掃の実施を望む。 ① いつも綺麗に清掃されているが、もう少し玄関などに花が植えてあると、もっと良いと感じる。 ② 美化コンクールをすることで、クラスのチームワークが取れ、学級運営のためにも続けてほしいと思う。
	②生徒・教師ともに美化意識の高揚について、その成果が窺える。	○ 校内クリーン活動を実施する。 ○ 学級花壇コンクール・教室美化コンクールを実施する。	○ どのクラスも生徒・教師が一緒になり、一生懸命に取り組むことができた。整美委員会を中心に校内美化や花壇の手入れなど積極的に行う姿勢が見られるようになった。	3	3		
PTA活動の活性化と家庭との連携	①PTA役員会や各専門委員会が計画的に開催され、PTA活動の活性化に繋がっている。	○ PTA総会の出席率を向上させる。 ○ PTA総会の欠会者集会を開催する。 ○ PTA地区会を実施する。 ○ 学年PTAを実施する。 ○ PTAによる学校視察の実施する。	○ PTA生活指導委員会では、市内各種行事において夜間街頭補導を実施した。また、アンケート調査を行い、PTA新聞に掲載した。 ○ PTA学習委員会並びに母親委員会は、教師と生徒代表を伴って学校視察を行った。また、各種研修会（県内大学・短大・専門学校の視察、創作教室など）を開催した。 ○ PTA役員意識は高く、PTA行事の円滑な企画・運営ができた。 ○ 教師と生徒も同行した新しいスタイルの学校視察は好評で、収穫も多かった。 ● 研修会の参加が少ない傾向がある。原因について検討したい。	3	3	3	① PTAの各種会合は定期的開催され、活動が円滑になされている。 ① PTA役員と先生方との連携も良く、全ての行事もスムーズに運営できている。 ① 意識の高揚と目標・実行のバランスをとるには、まず家庭から改革する必要があると感じる。PTAの方々の理解と実践を、PTA自らがされる必要があるのではないか。 ② PTA総会の欠会者集会を4次まで開催されたことに敬意を表す。保護者の意識が変わってくることを期待している。 ② PTA総会については、他校でも同様であるが、参集方法等に課題が残り、保護者の更なる協力を要する。 ② PTA行事については、目標に達したと思うが、PTA総会の出席率は、今後の大きな課題として取り組み、いかに学校へ足を運ばせるか、工夫が必要だと思われる。 ② PTA総会の案内状は、通常ではなく、色つきの封筒を使ってみてはどうか。 ② 欠会者集会を第4次まで開催するなどの取り組みは、評価できるものである。今後も地道な取り組みにより、参加率が向上することを期待する。
	②PTA組織がよく機能し、学校と家庭（保護者）との連携が図られている。	○ 学校行事の活用やPTA総会等への参加率を向上させ、保護者の学校への関心を高揚させる。	○ PTA総会の参加率90%以上を目指し、欠会者集会を4次まで開催した。 ○ 連絡や案内文書を親元に届けるために、各家庭にPTA文書連絡ファイルを配付し、活用を促したりして、生徒への指導を強めた。また、郵送なども併用した。 ● PTA総会の参加率は結果的に87%に留まった。各学年のPTA集会の出席率も約60%であった。参加率を高める工夫が必要である。 ● 出欠連絡票の提出が少なく、文書を再配布することもあった。文書の郵送は効果はあったが、全てを郵送することもできず、学校と家庭間の連絡方法の工夫が課題である。	2	2		

平成20年度 宮崎県立富島高等学校 自己評価 および 学校関係者評価

評価基準		4：十分達成できている。 3：どちらかと言えば、達成できている。 2：どちらかと言えば、不十分である。 1：不十分である。					
評価区分	評価項目	具体的方策	成果・課題・改善策等	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント
				個別	総合		
図書活動・読書指導	① 読書活動が推進され、開かれた図書館づくりが行われている。	○ 希望図書の速やかな購入や特設コーナーづくりなどを企画し、読書への関心を高め、図書館の利用を促す。	○ 生徒の要望に速やかに対応するよう心掛けた。 ○ 文化祭では「古本市」「生徒作品の展示」を行い、生徒だけでなく保護者の来店・来館もあった。 ● 来館する生徒が限られているので、広報活動で読書への関心を高めたい。	3	3	3	① 今の時代、便利のよい携帯電話の普及で、メール三昧の子供たちが増えている。読書など、程遠いものとなっているのではないか。活字離れの問題をどのように解消したらよいか、疑問点ではないだろうか。 ② 朝の10分間読書は、この数年、特に成果が出てきている。習慣となって役立つときが必ずあると思う。
	② 朝の10分間読書は、全職員指導のもと目的が達成されている。	○ 学級文庫の常時設置により、生徒の読書への意識を高める。	○ 図書部による巡回指導、学級文庫の常時設置を行い、読書環境づくりに努めた。読書週間の取り組みとして、「図書委員によるブックレビュー、読書推進のための標語づくり」を行った。 ● 朝の読書は学校生活のリズムとして定着しているが、集中していない生徒もまだいる。放送部との連携、図書委員の活動を進め、質の向上を図りたい。	3			
人権教育・教育相談	① 人権学習は、年間計画に基づいて適切な指導が展開されている。	○ 人権尊重の視点を踏まえ、生徒の望ましい人間関係づくりと自己実現のための支援を行う。 ○ 各学年に応じた計画的・継続的な人権教育を行う。	○ 昨今のインターネット・携帯電話による人権侵害問題について、啓発活動の一環として日向警察署生活安全課協力のもと、講演会を実施した。 ○ 各学年とも、人権学習の事後指導として、生徒の感想文を集約することで実態が把握でき、また生徒へ還元することでその深化が図られた。 ● 普段からの継続的な啓発や指導が不可欠であるため、生徒はもとより、教職員や保護者へ向けての啓発活動を講じていきたい。	3	3	3	① 人権学習により、心豊かな人間関係が保たれて、いじめ等のない明るい学校生活が送れることを望む。 ① 人権学習は、年間計画通りに実践されたものと評価できる。 ① 映画「おくりびと」など、人の死をテーマとしたビデオの活用。 ② ネット等の書き込みで、いじめなど、よく耳にする。この地域でもそのような事件があるのか。平気で人を傷つけたり、絶対に許せることではない。相手の気持ちになれば、教育していくしかない。
	② いじめ問題や不登校などの学校不適応について、予防から解決まで適切な指導が行われている。	○ 正副担任や教科担任等との常時的連携を図り、情報収集を行う。 ○ 毎学期、2週間程度の教育相談週間を実施することにより、生徒の抱える悩みや問題を掌握する体制を整える。	○ 教育相談室の利用状況や不適応傾向にある生徒の状況を定期的に報告し、それに基づいた面接指導を行った。また、学年会へ積極的に出席し情報交換を行い、担任と連携した指導を展開した。 ○ グループエンカウンター、生活実態調査の実施、市福祉課・医療機関等と連携しての対応、発達障がいに関する職員研修会などを開催するなど、生徒への直接的・間接的な支援活動を行った。 ● まだ担任からの要請によって動くことが多く、積極的に相談室から飛び出して、生徒に関わっていく姿勢が必要である。	3			
事務	① 公費・私費の効率的な予算執行、及び施設・設備の管理・整備が適切に行われている。	○ 条例、規則等に従い効率的な予算執行を行う。 ○ 補修の必要な箇所は早急に随時対応する。 ○ 各部各教科との連携を図り、教育環境の整備に努める。	○ 条例、規則等を常に意識し法的根拠を明確にするようになった。 ○ 年度当初に各部各教科より要望をあげてもらい、それに添って購入している。● 安全点検等、他の職員との連携を図っていきたい。	3	3	3	① 県立高校事務として、十分評価できる。 ② 不況の影響で、授業料等の滞納の増加が予測される。減免制度や奨学金の活用を推進してほしい。 ② 授業料の滞納などの問題に対して、事務職員もよく努力されていることと思う。
	② 授業料等、長期滞納の解消が適切に行われている。	○ 校内の共通理解をはかり、保護者への啓発指導に努める。 ○ 家庭状況の把握し、減免等の申請を勧める。	○ 修学旅行の参加に関連して滞納解消が図られた。 ● 減免要件に該当するにも係わらず申請手続きをしない家庭が見受けられる。次年度では早期の申請手続きを勧めたい。	3			